

【担当教員名】 米林 喜男	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・栄養・スポ・看護・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

医学・医療及び保健・福祉の概念を学び、そのサービスを提供する人々と受ける個人との結びつきについて特に基本となる生命及び人権の尊重に焦点を当て、倫理的側面から学習する。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 医学・医療及び保健・福祉の起源の違いを理解する。
2. 医学・医療及び福祉の対象が重なりはじめたためそれぞれがひとりひとりの健康で幸せな生活を確保し保証するという共通な目的に向かって異なる面から接近をしていることを理解する。
3. 保健・医療・福祉従事者はクライアントの生命を人権を尊重することが第一義であることを修得する。
4. クライアントとの良好な人間関係モデルを学習する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	医学・医療及び保健・福祉の起源と現在の医学・医療及び保健・福祉の目標		講義の受講（受講者が少なければ小集団討議も行う） インターネット・文献等を用いた自主学習
2	医学・医療及び保健・福祉サービスの違い		
3	保健・医療・福祉専門職の役割（プロフェッションとは何か）		
4	世界人権宣言、国際人権規約A規格、国際人権規約B規格、児童権利に関する条約、日本国憲法と人権		
5	患者の権利章典（アメリカ病院協会）、障害者の権利宣言（国際連合）、リスボン宣言（世界医師会）		
6	インフォームドコンセント		
7	情報の公開と知る権利（真実の告知）		
8	プライバシーの尊重と公共の福祉（守秘義務）		
9	クライアントの自己決定権（クライアントの自律）		
10	クライアントの社会的差別の克服		
11	医師・患者関係の3つのモデルと医師の役割・患者の役割		
12	ノーマライゼーションとインテグレーション及び人間の生活条件		
13	エンパワーメントとアドボカシー		
14	保健医療と社会福祉を学ぶ者に求められる4つの「H」		
15	まとめ		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	特定のものを使用しない。			
参考書	随時紹介する。			
その他の資料	必要に応じて印刷教材を配布する。			

【評価方法】 記述式の筆答試験を行う。なお、原則として授業時数の2/3以上の出席により受験資格を得る。	【履修上の留意点】 最近の若者は新聞を読まないといわれているが、本講義を選択される諸君はぜひ新聞を読み、紙上でとりあげられている保健医療福祉問題に関心をもってほしい。
--	--